

2. 指標設定

成果指標	指標名	適正かつ迅速な事務処理	目標年度	H32	指標の設定理由			
	数値	—			総合計画前期基本計画の4-4-(4)で目標としているため			
活動指標	指標	a 経理事務説明会の実施	数値	b 公金管理運営委員会の開催	数値	c	数値	d
	目標	年2回(H23～)		目標	年2回	目標	目標	目標

3. 実績（上段・実績／下段・達成率）

成果指標名	単位	H 2 6	H 2 7	H 2 8
適正かつ迅速な事務処理		—	—	—
		—	—	—

活動指標名	単位	H 2 6	H 2 7	H 2 8
a 経理事務説明会の実施	回	2 回 100.0 %	1 回 50.0 %	1 回 50.0 %
b 公金管理運営委員会の開催	回	2 回 100.0 %	1 回 50.0 %	1 回 50.0 %
c				
d				

課題	
財務会計システム等の周知・徹底に努めているものの、経理事務に不備が生じるケースがある。	
対応（改善点等）	
一般職及び管理・監督職を対象とした説明会を実施すると共に庁内ネットワークを利用し、経理事務の周知・徹底を図る。また、公金の取扱及び事務処理について指導、検査を行う。	

5. 事業費・・・H 2 6～H 2 8（決算額）、H 2 9（予算現額）

決 算 額（千円）		H26	H27	H28	H29
		2,175	1,259	19,568	9,560
うち経常経費		1,019	1,259	1,409	9,560
財源内訳	国 県 費				
	市 債				
	そ の 他				
	一般財源	2,175	1,259	19,568	9,560
	うち経常	1,019	1,259	1,409	9,560

6. H 3 0年度予算の方向性

方向性
前年並
理由
会計事務処理に必要な事務費である。

7. 担当課による分析

着眼点		分析	分析根拠
① 事業の必要性	必要性の再確認	3	必要不可欠な事業である
② 行政の関与性	責任領域の精査	3	法令等により、市が実施主体であることが定められている
③ 手段の妥当性	活動指標の分析	3	目的達成のために適切な手段である
④ 事業の有効性	成果指標の判断	2	更に公金出納事務の適正化に努める必要がある

8. 内部評価委員会評価（委員会評価）

事業の方向性	評価内容
継続	引き続き公金の適正管理に努めること。